

ひとりひとりを、どう本気にさせることができるか

～仲間とともに「夢」を「現実」に近づけるか～

奈良県立御所実業高等学校ラグビー部 監督 竹田 寛行

私は平成元年に本校（当時、御所工業高等学校）に着任して部員2名のラグビー部の監督を引き受けました。練習に使えるボールは無く、生徒と一緒にグラウンドに砂をまきながらゼロからの出発でした。そんな当時のことを振り返ると部員がいないことや道具に不自由したことよりもただ「ラグビーを教えられる」という新鮮な喜びに満ちた日々が思い出されます。毎日の指導を通じて生徒とふれあい何か変化があると純粋に喜びを感じることができたように思います。理屈ではなく同じ時間や空間を生徒と共有することで色々なことを学ばせてもらったと思います。

試合に負けた時、選手達が泣いて悔しがっているあの涙を勝利に変えるためには、何をすべきか必死に考えました。彼らが流した悔し涙が私に多くのことを教えてくれました。初めて奈良県高等学校ラグビー部顧問会議に出席した時「おまえは部員2人で本気で花園狙ってんのか！」と言われ悔しくて情けなかった自分を思い出します。あの時本気にならなかつたら全国準優勝には繋がらなかったと思います。言葉にしる行動にしる、何か一つきっかけがあって自分を本気にさせ、諦めずに目標を達成させようという気持ちを持続させることが結果に繋がったと思います。私は夢とは近づけるものであり、掴むものだと信じています。

毎日の練習を理解させて持続していれば必ずチャンスが来ると信じています。何故なら今までのOB達が多く経験を通じて積み重ねてくれた失敗や成功の上に、今の御所実業高等学校ラグビー部のスタイルができあがったからであり、真剣に勝ちたいという思いを強く持ち続けることで必ずチャンスが来ると今も私は信じています。



「本氣」という言葉の中には「努力、協力、質素」という三つの要素が含まれています。

その要素のバランスがとれたとき、初めて周りの人に認められ、チームも機能するものだと思います。試合の勝ち負けだけでなく人格形成（純粋で素直に人の話を聞く態度を養い、言われたことだけでなく、自ら考え臨機応変に対応できる判断力）を私は重視しました。こうした指導の柱となっているのは部員を「リスペクト・尊敬」することであり私の役目は、生徒個々の個性を引き出し伸ばすことです。「良いポイントを引き伸ばし、スペシャリストを創ること」と現在活躍している菊谷崇選手（キャノンイーグルス OB 元ワールドカップ日本代表チーム主将）、大学選手権3連覇の立役者となった森田佳寿選手（東芝ブレイブルーパス主将 OB、元帝京大学ラグビー部主将）などの数々のOB選手達に言い続けました。

やりきる為には結果だけではなく、そのプロセスが大事で、たとえ優れた能力をもった人間が集まっても価値観を共有することができず目的追求に対して同じ動きができなければ強い集団にはなれない！



1人でなし遂げる夢も素晴らしいことですが、仲間と共に力を合わせてなし遂げる夢には何とも言えない魅力を感じます。

仲間と共に挑むものがあることで、一人ひとりがより高い能力を発揮できると思います。

ラグビーというスポーツは、（絶対ということはないが、絶対ということ）を信じ信頼・責任を養い、リーダー性があり【人に伝える、伝わる】コミュニケーションとの駆け引きのスポーツです。チームのコミュニケーションが確立した時、初めて全国制覇に近づけることができると思います。

また優勝できなくとも必ず将来に繋がり、コミュニケーションの力が人の上に役立つ時代が来る、その為には毎日の生活を《当たり前のことを、当たり前でできる》積み重ねることでゆとりができ、一番何もかもが上手くいかない時、逃げださないでやり切ろうとする事で自然に笑顔が生まれてきます。

人生を生きていく上で本当に大切なことは、周囲に目を配りつつ、人の気持ちを思いやりムードを読むことが出来多くの人達とコミュニケーションをしていく事と、周りの人に育てて頂けるような環境づくりだと思います。

ラグビー部の指導を通して（いい準備・いい環境・いいモデル・いい将来）生徒の育成が挨拶などの規範意識の向上・清掃活動、学校行事における生徒の取組の活性化という形で学校全体にも広がっており、他者評価を大切にしていき、ラグビーを通じた地域での青少年の健全育成・市内の保護者との連携の他、多くの人にサポートをして頂き、今後も学校内外での育成を大きな課題として地域一体型の努力を行い、様々な人に育てて頂き一人ひとりの将来に繋がるようなチーム作りをしていきたいと思っています。